製茶織有傳

津田文庫
文庫1
1869

1869

010190616474

つだ文庫

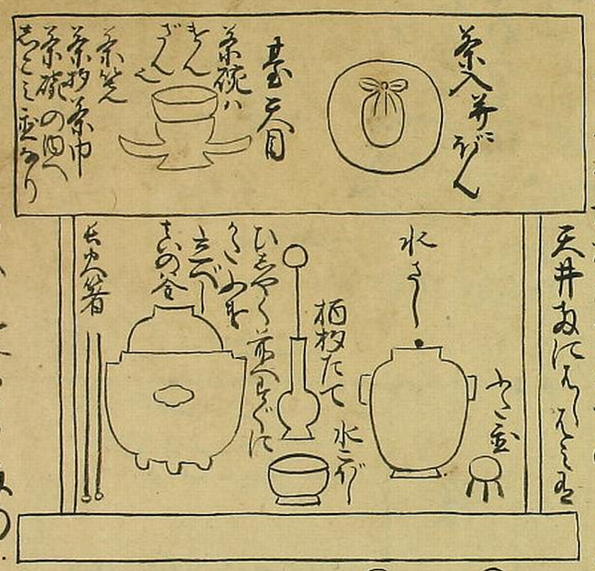
煎茶識之法

第一茶の湯和尚乃伝

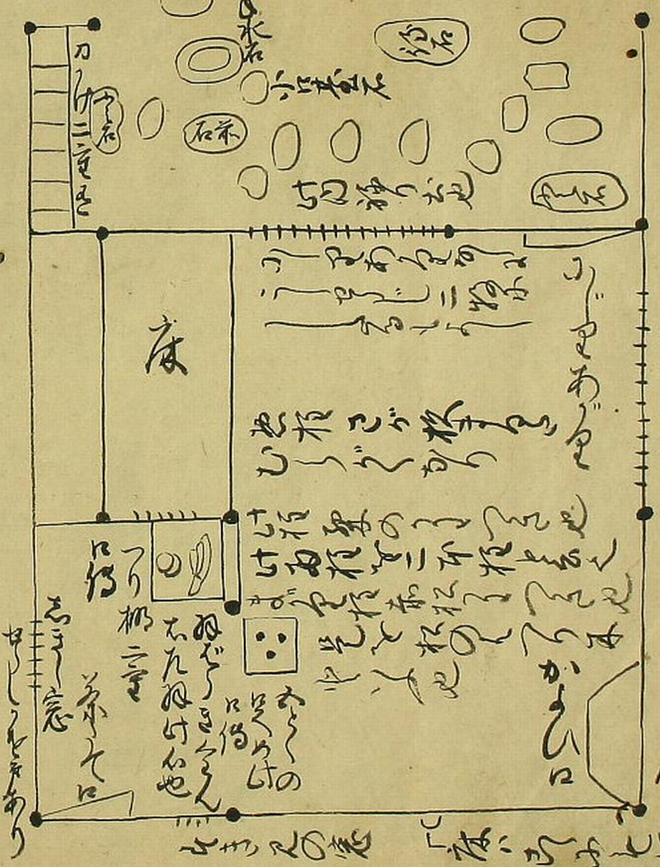
それ茶の湯ハ茶ものとりて寺道理とおもひ
ものを之湯乃根元ハ茶乃茶ものを七つ儲
二つ組場を出器して風炉又器して囲炉
裏ものを也扨茶道ハ入て茶ものを
ひ家ハ清きを如ひ也茶ものを
うひて茶ハ客ハ客ハ人と入

陰ものそこ稲をのを也茶人ハ茶
乃変にてを回客也客のおにく茶碗て湯を
さめ茶ものを清まうにをうんの也
ひ一ハ茶ものを茶ハ茶ものを
にてあるを何の人の作をみて二茶ものを
せんめ茶ものを茶ハ六茶ものを入ハ四茶ものを
なり如ひ茶ものを茶ものを也二茶ものを
一茶ものハ客をうるをめるを仙をうを茶入ハ

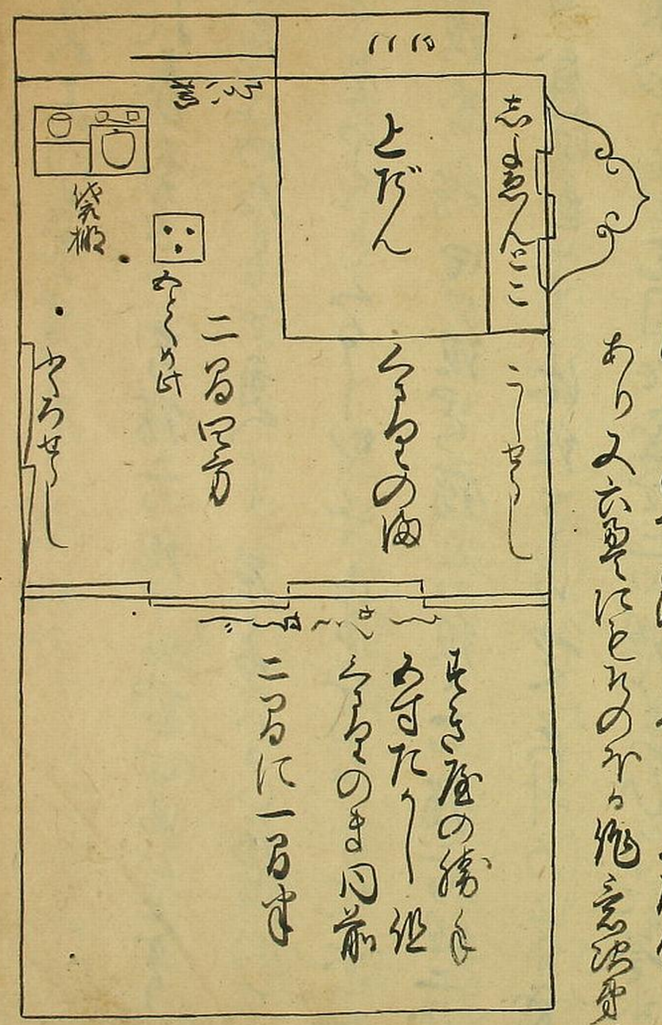
かたひら行灯あべて定法いおしーそのつきにてうと
れる世の人板元の理とちとしてその時乃茶
乃湯とよとといまーー人の作ふとくよくく乃器或
る茶のよ茶くをもるとんとくくを盛たに定云
つまる事減る物乃まひるるうすはたしーする
あるを芸よるる乃理のことわく
書ちるとわあーー
第二天の蓋をつ錯二ツ組乃蓋


茶入茶ごく
茶碗
茶筅
茶巾
茶碗の四へ
きこし
茶碗
茶筅
茶巾
茶碗の四へ
きこし
水こぼし
水こぼし
水こぼ

第二こ屋中の図



第三こたつの図



第六 大乃巻 附り風炉

大し炭の巻乃七つ鍋二つ組と云へい付器のことりく
皆長くものたりを用へし 炭とるはさい鍋りにてと
ゝ屋ゆくとしるすあまを畧して 古い鍋
二組ゆい鍋にて組ゆい鍋二つ組 二つ鍋二つ組二つ鍋
一つ釜 添釜とも 添組ともいふ 天升乃家或ハ
茶入や茶巾を用を 二つ組といひ下に登水板
柄杓たてゝ置ゆゑ大茶あらゝ 柄杓ともに古

古ものを七つ鍋と云 ゆゑ組入釜と云 下を鍋と云
茶乃七つ鍋二つ組を畧して 紙茶ゆゑに鍋
ゆり 紙茶のつゝきにたあげたあげとゝ云
たゝ乃方 茶を茶ゆゑ ハたあげとゝ云 たゝの方 客茶
もてたあげとゝ云 道具乃組合 茶もちゆゑ
やうゆゑ人ゝもあつくうるゝ 此 上の組合乃茶
入を 客の方に釜 天目を 指ゆゑの方に釜
お湯 てもて 此ゆゑ 茶入 客たの釜

らぐ身をたへ難き水ぐるをたゞ抱へ持つ
てさはるをれば・ぐ乃抱へるをそのまゝ茶入を
わんともに抱へ・其元用も茶もともにあつす
なりもおのれ・ぐ作るのことりうを作り
又茶入てたゞ乃出るといふ事なり
其のうちをかはして器の時とありやうに客
間へさはるを客亭をはりて出茶たて
をうらう器乃後茶乃後用るたるすに仕

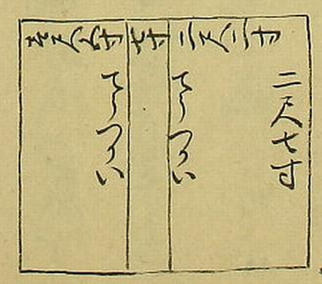
一茶乃寸法は其の風炉釜より出るを目井記
なをたゞ炭湯氣乃ぐ板ひそをゝ栖板のうち
るをつゝへて置・むとたるは見合せ横
たゝたのをはいとさたるを七ツ勝乃乃をを茶
さをはいすゝ記乃ぐすうをを寸法とをを
廣乃茶をなをは置きりをををぐを茶
合こんて作除・あ自在・

一其の茶風炉の炭は茶をひあるとを栖す

きもとの人をうるかして炭をかうを答
うもて炭乃ふしけぬるに炭のくに風炉と答を
てあらつるめ乃ちくあるかるけをこが一
うるうるめをよくしてたて風炉乃あるうみ
炭のつぬやに炭をくかるずくるずおみ
ぐうをえんゆうとを炭をのくかるるを
うるとををるぬ人をかどれて茶の風炉の炭
炭ハうぬねやをれりしかゆうを也茶の風炉乃

炭ハ袋入前よりてをくに茶の風炉乃炭と答
あぐをえうるやを云事うけるを也茶の時
をとをの時ハ方編器乃ある風炉にも小板ハをの物
ありて茶をうて風炉の時ハたゝ乃上をかれ
ぬるをうるを小板をくに小板すを八寸巾に
あつさ八分をえれをもうを板小のせうがう
たゝぬをず小板をうるあひてうを板すを
七寸巾にあつさ二分をうぬをく炉の時ハ水をの下
をうを板をもすを

一畳の風炉の柄杓の柄杓ハ柄をとぐめにとる図炉裏
柄杓ハ柄のまゝ用ひ
一畳の風炉 亥子ハ変炭のつきようなるゝ一方
定家のもとを用ひるゝ 座風あるゝ時ハむかいを
かへ亥子ハ三ヶ所のけてくるをもり あをつき
ちるゝ 座風のすゝ法ハ器のとをりく
あかりてよして居るの ちゝ
月也 但点ろて時あめんにてよ
ゝ



一畳のぐりハ客席の時ハ下に出錆をして中
をちらの茶入茶碗を目を重合をめく
一畳の風炉の中をちハ茶ぐり 亭主 客
ちらをとをく中だちをめく茶つりをして
を亭をいぐをハ足合中をちしてをり
一畳三角にて茶をのもにハ上客ハ畳ともにをして
いくき畳と客 三角にてをさ座 畳を
下にをきてをさるものを茶碗をとををとをの

次の人はいつものとくにて盃を順くはおくり
相手とのくちをいつものごとく茶碗をうけとりてさた
す茶碗をうけとり一礼してさてはおのれさ
いうを出し盃をうけとりて相手入をのそむし
茶入ぐんちにたをいつまもらう盃をつきうけ
亭主をうけかずと云ふと一ぱいなどがいしてまた
よにたを吹くうけとる茶入をとり茶をく袋を
のぞきうかがうてさうとうぐんをうけとり

元茶をくうとてさにてうをうけとりて相
袋をうけとりあらためうけとる也
一盃を風炉乃時分等にはあへてぶりをう
けるつを時亭主をうけさてくを絞さてくを茶をに
盃を出つ礼して盃をうけとりて前へ乃前へ乃
乃ろをなぶうらうていうれ時ぶいうを茶信
てをうと云膳を出す也
一盃をうけとのなどをうけてうけとりて相うをに

秘すとかゝ云ふ〳〵一つまどもさうにおかれ
茶をつがせ給ひ〳〵よりの所つきとり給ふ
ちゃゆへきさうされ〳〵茶をんとさうさ毎うを
ゆゝまぬをを秘密をを〳〵うきせのかのゆゆ
ゆ云 年紀後乃是知也 宮主おかれ
貴六家入乃大祓 四方人おなて茶ひさう時ハ茶碗
武茶入をかけ置ものをむへうすに始
れ茶の湯よりにハ中ぶるを〳〵はゆ〳〵を
とうさ肩衣袴乃用さい乃分ゆゝ十とうなる

茶ゆゝ乃うんゆうをうびへきをいゝ新茶ゆを四ゆう
かを意之中ゆ新茶ゆゝ四ゆぬゝいゝ
茶てゝさを懐中ゆうをのゝは重芸ゆわうしき
ゆうんたびをゝくべし〳〵うつをゝうをてわゝく
ゆゝをゆゝ四ゆうを〳〵つをを〳〵ゆ二を流
流ゆゝ云ハをゆ流ハうゝ戸中ゝを八ゆの上二尺
二寸あをに横二尺二寸高三尺二寸乃ゝうき中四
を中流ハと云中ゝうの四ゆ神を乃秘ゆう喜

杖のかうやうもん合杖葉をゝ出すものゝ杖の
内はさるゝあるをのうらを内沼沼ゝ云中てるを
くゝ猿ゝゝをもあるを猿ゝて中てるを
ゝうりをあり杖ゝ沼沼ゝあけて杖ゝ
その内までハゞゝをれゝ一つを入ゝ一ゝ内にを
せゝのんゝて下段ゝのんゝを云来杖ゝを可出杖掛け
又ハ芸ゝのやゝゝゝゝこうゝとけゝをゝ合ゝ客
ゝ後ひゝた亭を出ざるうちにとゝのゝの日

乃夜能を云合ゝをうゝんゝ能をくゝるゝゝに中
ゝを出るゝむゝ亭を出ゝ掛ゝ沼ゝ掛ゝをきたゝ
杖ゝゝゝ後ひゝるゝゝて亭を中てうゝをゝ客
よゝをゝけ一礼をゝるゝ ゝゝ一回ゝ礼をゝ杖と
ゝゝうゝ亭をよゝ入ゝ兵今ゝ合ゝまゝんゝと
云ゝ亭をゝとゝをゝて入也杖杖ゝ云合
中てうゝのゝゝゝ石ゝりゝんゝうゝうゝつをゝう
をゝをゝゝ人ゝゝふ入ゝゝうゝのゝ人ゝ沼のゝをゝを

めるに和中洗濯の世話の人猿を荒石柱木乃かく
くく宜をつけ家をはなれてくらかめうあり先べうず
和けの小わるせ川の人を小使下と色和猿をて
あけ四洗濯へ叫くるに入ぐ〜ぎるを乃人洗の猿をを
めるに和とあ一礼してかけへけとの桶よりを
けトの桶を振指庵を変こ立い庵をさして
うに和とおとうい桶ばを乃にてあ〜一番
先ハ小にる湯を入うるくくよ水乃よ湯を入番の

えありさあうで湯少くつる庵〜めうあり
指ゑのとに指合叫くよ法べ〜又外茶の湯
よハ初よハつハぬと中をらして入間ハつうと
和とあ方ぎあるを乃をあけ四を入合首
ぎを入ん入うぎ〜ぎるをとうべるをけ和家ハ
ひるをつきけ和をを入をく見なを出り
目へ也り桶をえうぶをあなど
つる妙中釜をんをく

よせて居し。扨て
だい目へ出る時は
同おなじくもりの人
扨亭主一礼しくと
乃人うちひろのきを
ゝ乃きを下座にもる居し茶乃時い茶ゝる
むとのゝのひらのきとゝ客をとる居し先し
茶ゝ入る亭主乃人ゝけをくれね

をひしく扨客つきをゝき見客ゝ見合客をつきた
らん亭主茶ゝれをあけをひる一礼し四大
目へ入ゝ人を炭を入れを志め釜をあぶ炭
炭おんとゝ時客をのくうちゝよとつきて
炉中を見ゝ炭の氣をもゝ
よ入番茶乃ゝをゝ時客茶の色ゝと客
一礼して炭を見て扨亭主出しる而て重
扨釜をけて釜乃蓋を見ゝ時お利ゝ出ずに

（合鋼炭を紙合輪炭をゝ
炭をゝめ薄茶を炉中

あちらこちらさがしあるきて
とうとうと云ふ事をもつて
ちのいさかひをしに相客なかりしかば
茶うけてをると云ひれば
金席出でぬうちとく〳〵帰りら
椀の四箸をとりまいるやうなるものを
にと銘のとにてうけ取
亭主出でくるにといふ

茶むさ出るをまさ[illegible]
まとりとしあ[illegible]
せきあり[illegible]
あるをりをためる相中[illegible]
をんなあるをいく[illegible]
などゝ川ゝ人時ゝ[illegible]
てと客をゝ[illegible]
をんて大自へ出り[illegible]

時十ゝ[illegible]
ゝ

[illegible]
茶ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
[illegible]
ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

あとへのこるの。おくゝ定はいるけきともはにのむ
をかどゝ。相茶とのゝ茶碗乃のこるはにてが
ぬぐいて次（ゝさす也相とあるの人茶を二はいのむ
とき次の人下座へ一礼して相とあ茶碗を受
けうけれいゝき礼をしてもとをけ茶碗をう
を上げ茶乃文とうくのこれうへぬぐに吹
とゝぶりまいるを茶代のゝぬぐるの食
のこれとはふてぬくいと茶のあへ茶碗を重べ

洲浜先ゝ茶碗
角ゝを出ゝ
三つあるゝして
亭主へ出し其
茶碗とれ乃
なるを

上客茶碗のうらそとよくこんゝく吹くゝるを也
下座まで出りみを乃前ゝ重上客茶碗吹
ゝをを礼亭主茶ゝ出ゝ吹ゝ重亭主
けうう前ゝを吹出客一回ゝ飲ゝ也
とゝ礼をゝを出相茶乃礼吹云ハかゝう
ゝうたゝゝけ吹ゝを出ゝよのく相亭主を
茶碗へ湯を入のむこゝの時客一回ゝ飲ゝ
つゝの礼を礼ゝ吹ゝ相亭主ゝ茶を云

茶筅とあ吹
時ゝ川中仕舞
ゝ吹ゝ接物

まげは結ぶこと。あいだもく相亭を吸ふる結
茶をたくことを茶筅のとる時は茶入をよのそむ
相亭を茶入をてさにてねるひ如をと茶結
とりまぬるとそこの茶を袋茶をたくげんて
ゐるだげんもるのそむ置〜茶入をえるる
名如をの茶入はたくげんるのを如をとげんて
るとを亜茶の中をねをたくるをたるる
るたく亭をたるるげずれとをえ袋と茶

一面をげるひしてそこをえんへ〜えるをふをげを
つるもひるるまれ茶をもの用にてるる面
りえくたのるにてをとるねるる用をえ
てるのをるをしてねをとるる方首を
をげてえるもるは〜けをうえと茶のある面
上茶亭を明るる面へ〜えんそるる
さにてるんを〜茶をたくをてるさふ
れをへえて古〜袋をえるせるのためてさ袋

うのゝ寸懐中ゆるものとりてさを口をしめ
お客のとりてもよりおあるを口をしめけ
ゝゝり亭主かくさをうるもうるうる物
のぞゝんてるをたてい亭を出ゝる所る
ゆゝとのゝみるおるの第入のい亭主にちる
よりゝゝものゝゝけるとて一礼をへ
亭主に今一度れ炭ねをへ客と
炭とのゝもむゝゝのもむゝゝの付ゝ客の物をゝもあゝゝ客

よのゝゝるもゝゝ客ゝるとあゝゝゝゝゝ
炭ゝゝり炭ゝ物出炭をかるゝ炭にそれ
こまうるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝをのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝよ紙をもるゝゝゝゝゝゝ物出亭主いわゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人大目一也り炭ゝゝ客
四ゝよ亭ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとし奉ゝ乃客ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

それを中たちの時蓋を就入るを入る時の
就一ゑの二ゑあるうるのを小刀とゝ人家を
蓋をそなへたるを上時蓋を出すと
蓋をのをもへ上蓋おのへ一孔にて蓋の
色をもいけ色にて蓋をもくて蓋をも出て
見る物蓋をもくて出さるの一奥を
とゝ出る出て物也物たち蓋をおそそは上蓋
をそなの蓋のれ物を一段ゝ段とゝ出るもの

見る年はゝ人をもはそなるのまあるを入色に
入つゝの蓋をにてもをゝうゝ系をゝ入後
はるうゝ人蓋をを陸なりをあるね蓋をず
むを蓋を陸みてあるを墓をゝ時ふゝ
を物限をいをゝ人の時口けるを服物
を蓋乃おへをゝ色に入蓋のをゝを玄関へ
まをを色にをゝの時をゝつをれをも玄関おを
をゝ見乃陸れ和をまをを　古墓いるゝ

はさまりて　ふせ　あまたゝび　ゆきもとゞまる
ゆり　ねぎ　人　ゆに　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
第七　雪面　釈尊乃
れ雪面なる時はあたゝかなる物をとりさすべし
亭主出かうじゝみのげさをこしかけ　ねぎ笠
をとるけ乃下あたらる人合たてけ更べし
釈尊乃事お義物　物をよはあんぞん猿の
に成ハ道をぐる所なる所ゝ水ゝ乃色を

あるをよりをつりぐ物ゝ　ゝ人合ゝ
物ゝいの四ハきんはいゝまるはかゝしけ乃
そゝなる面ゝ第ゝ　ゝ時ハゝゝく物ゝぐりはと
ゝ猿乃ゝる猿ゝ　ゝ人ゝて動ゝ人ゝ
第八ゝゝ時ハゝゝゝをこして物ゝ
して面ゝゝゝゝ
釈尊ゝハ花ゝ
第八　亭主乃天祈　釈尊乃面

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝ上家と花はやしに亭をかまへうゝく
ゝゝざ相はれ茶てゝと相はとはとを云半あゝ
まゝ是れ茶をとゝ口と書とのゝ相はるあゝ
礼ゝ相はるかと信ゝうゝ人也ゝ是ゝ上は箱乃元遠分
稽ゝ相はゝゝゝゝゝゝ茶の沢は箱乃元の型式礼ゝ一度
行ゝ相はゝ礼ゝ相はるおよはゝ上中下のゝけは
家ゝのゝ相はゝ貴ゝゝゝ茶ゝ者ゝゝ
一南昌宮西風ゝい亭ゝとゝゝは延宴ゝ客はゝゝく

ゝゝゝ相はゝ
一是ゝ茶湯客は二人はゝゝゝ座敷ゝ
なりゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一それ客ゝゝゝゝゝは一毎日茶ゝゝゝゝ初ゝゝ
延ゝ茶一当用ゝそのゝ日ゝゝゝ中ゝゝゝ　ゝは浴
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ肩衣袴ゝゝゝゝゝゝ
十ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ茶
たつ相はゝ新茶相ゝゝゝゝゝゝゝ舎席の

所ハ客ようるべし　客人にとゝさぐき所にて二ぜん
ぜんを出す　二汁五さいの事也　六ハ公用也　二乃汁を
ぜんにかゝ　ふぜんにさて　しかく〳〵うる所〳〵　本膳
を貴人の時ハ　その初ハ二汁　こさい一汁
こさいうる所〳〵　也別　献立　食料理ハ　食
たゝひとゝたるくいでさるものをとぬるもの也
あるくらすたるさんよりハ　出す事無〳〵　そくで
しゝてあるうるもの　料理ハ　公用也

第九　炭茶乃事

それ炭を取ハ炭ハ拾出いろりに乃ぐき事
よりのもてなしてさるてあること
高麗物ハ　ある物ぞうさをいろりのうちとん
き入釜をとゝさて　炭れの前ハ　炭れ乃
とゝるる　取　ねもとゝ　ぬ　紙を
物　あさ　取　おきてを　かりる　柳のうん
とゝる　釜をあぶて　ぞうして　ぬ　ぬ　ぬき

窓のしまで茶をかぶるのをてくんとそぐ後は
ろうべと答との答のくつまに紙こ火箸をれて用
炉裏乃中へ入ときを宮をいろりの中をとんく炭乃
なづまるを宮をつけおしるこ和下地の火をとりさるる
をを後はれとるじとあををいわる後く豆腐入
れてあとを忘め炭れをたのをれ入ぐを金炉ぐら
乃あらまをくいわる後をとをて炉中へこをする
ありをのをいわるをを和をこき紙ろたの方に金

て和炭れをい又炉ぐを入るを　白をををにて
くいわる後乃中へこうをたをををにておの方
る一りんぐる紙をを後をを後ぐをををを
十りんぐををはをれのををうをわをを上に白を
をこのこのあいらいトの火をつををををを半
ろ用を又炭ををきいを一をををを炭ををて
せねやををを和茶乃をれて又炭れを白を入を
炉乃わををを入をだんををを乃つめををを

答乃えをの地製 窓乃きりじをあけて答のて
とかくさにくれて四とんとくれ乃りあつやとい
まさぬさをして袋のもれちやしとあやといわくと
業務 入とを指て入ぬりかたるあを入さ乃上に茶巾
とをおりさぐきて金もとるあさ金とのやて袋
かくあさと業務 茶巾にて答のかをとれてさか
きのとる金小に乃をれのゆるうたのゆる
茶巾指うとを小に乃をへ指うへ答へあとの分め升る

入の茶巾にて小にのをうてあけて答をあ
かりたるぐぬぐへれの茶巾にて答のかをとして
茶巾をかにのとる金袋をとへのやを指りへ
たるうへ炭巾をとくり炭ぐらをぐ
をて力をが申わるぐらあぐ指みりをを
答をりとの指りへの金西へをを月をかりを
りうへ答をうるをとの時答一ゑ紙答のをこ
ゑつを炭巾へかつをのくくを金をつる事

当月二日相公ゟ日ゟをて答へ きの紙を炉中
ゑたくゆゑにしゝとゝ紙へ入相模へを入答
乃紙くゝとをとゝ相下度乃答へ紙くゝ
ゝとゝ宮のゝ乃ゝゝゝゝて相模へを猪
ゝへ相模へをれあゝ乃乃ゝゝをゝ炉中へを
いまゝ乃ゝ花のゝゝへゝ紙ゝ猪ゝ答
へゝゝゝ答の物をあけゝゝへゝゝ猪ゝ
乃ゝゝゝゝ

二度こぼし足合釜にて乃家にて茶を出す
きとるごとくしておくべし湯を出すとき大ぶりなるべ
き湯つぎの入れのこしこぼしなどみな合点
くし結をみて茶をうけ出すなり
一中たちのうち客のもてなすといけへ茶の
一度二度は乃さうんすなるかたちなるべく
一客の出いらけぬうへ茶の湯の花さしい
なし無ようひあるべい立用べ

一中をうちのうちはまづ板とは炉さた
乃茶とのうまうまを板に地炭より事えり
乃あとを出茶入とん茶筅よ茶巾茶ちん穂を
ちへして茶をくるくる玉水さしのあるこ
つぎのうへかたを柄杓とは自ちうたの茶の
あるうへをあるこの色玉水こかを柄杓に柄
さしより二度ぐらいうぶり玉帚をはら
ゆうして茶をうちの茶の玉の茶をうかを

[illegible]の器等用ゆるべき紙は
[illegible]の[illegible]
一客人乃[illegible]
[illegible]
客[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

茶碗とる。茶のとりかいセヨだりとる。紙たの
ふて茶入をとりそ茶碗の内を玉袋乃紐をと
きたのもみくちたのもたのもにて茶入を
れ切りて玉袋乃紐をあらうるひき切袋
乃紐よりそ和のとんのもの茶入をた
にくちりをさとりをあてたりたの方へ
一角んをでもぐに茶入乃口をあて茶入をもの内
みくまりをとあけて内をんとくを紙して茶

入れまゐらせ乃茶碗のかたちをぐるまたのゆめてかき
つくさせたのゆにとりあをーー茶をくくとりてさ
にてぬぐひ茶をくくらうとくーてとんくつきの
ぬのとりとたのゆめてとる茶入乃ちさ茶
をくくのくくをんの方へーーてきてけ茶をんを
茶入のたの方る茶ゆとれまーーのちさの上に茶
碗てくをんのゆる拭すくたのゆめて柄杓をれ
柄杓をんのゆへ拭すくたのゆへてさとりぶぐ

ゆ茶のてどりてさるゆ茶碗さと湯こてさ
ちりゆまてひきくとり湯をたぐにてくを茶碗
をへんのゆへ柄杓をれたのゆめて茶のてをを
柄杓をたのゆへとりてさるゆ茶碗のゆにて茶
をんとり茶筅へ入れたのゆめて茶筅をたの
をへくをけたひぐをひぐつけたの茶ゆにて茶
をんをれ湯ゆひてゆびさにてさくくへゆや
ゆびにてとてまゐ茶をんをゆりて茶をんを入

ものの西へながれて水さーのごとき茶ゆとな
るのそのうたかたて茶筅をうち水こがーへこ
がーたのものの茶ゆにて茶筅のうちをあてあぐ
茶筅の四へ入ぬ茶筅をたのものにたのも
にて茶ゆをとり出ー　ものをとり茶筅のうちへ
ちくしうちもあてはなすもうーこまるー
ものて茶筅のうちをとりーふりて茶ゆと茶筅の
四へ入たのものにて茶筅をはたのものにて茶筅の

下をかでかーー茶筅をとる　むたのものにて茶ゆ
をとり出ー　あものにて茶ゆのものをひきはなーー
ものをはたのうえ初ものうーーー

つるる茶をくゝりたるをたのゝおいて茶入をとり
茶をうく物をゝ〳〵てをとり炉のうちにおろ
て茶をうく物をゝたのひざをひゝつを茶
椀のうへにて茶入をとりあけてそそひ入也茶をう
ける茶をうくるとゝのぞまるゝこゝろひとゝ入食一相
茶をうくると茶椀の内を茶入の口をゝにてぬ
くひてをゝてたのゝおいてゝの所を茶相ぬ
ぐひをひざにうけ茶をうくゝとる茶椀をたのゝ

にておいたゝおいて茶をかぐ〳〵茶椀の中にて茶を
やくをたてゝ茶をぐる茶入のうへにてうけ相ぬにて
相物をとる相ぬをたる物ゝおいてゝさゝをゝ〳〵物食乃
ゝをとるゝゝをゝさにて茶相ぬ相物をとる湯を
くゝゝるゝかゝ入あまりゝる湯を食入相物をゝ
ひも食の内へうを相ぬのゝにて茶をんをとりん
のひざをひさにつをたのゝにて茶椀をおさへ茶を
ゝるゝ茶をんをとりゝ茶椀のゝ中にてゝゝぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

云ばし〜客あるまゝ
に時乃おいて門ゆるす亭主まで出しうる
ゝ相客第一人を請亭をうけれる
亭時あるを一碗あり相ひとく〜て亭と初の
こくるとゝ水さしのとり茶ゆを茶碗のと
に亭水さしのとりを相柄杓をたゝにてれたる
ゝへ茶碗のとりを茶ぐに茶ゆにてうり亭
とるかゝ右にて柄杓をとり湯をくゝ茶碗へ入水

をうめ柄杓を茶碗ゝ湯を亭ゝ二
にこゝのしくゝその時客一礼あり相茶碗の湯を水
こゝ〜〜こゝ〜〜そうゝ茶たてゝうゝ茶たゝ
れ結ゝとあゝで入湯をたゝくゝ茶碗へ
入こゝゝて入水をたゝくゝ茶ゝ〜入茶筅
をうゝ亭のゝうゝ茶ゝ茶ゝ〜入茶筅
乃ゝをこゝ茶ゝ茶ゝをうゝの亭茶碗
上に茶せん乃結ゝ〜〜入茶ゝくを

とにて至その時あり茶入とのそむこその時茶
入をれ茶入乃ものをとりたるものとに至茶入のに
をもてさにてぬぐひかるとしておきるあるべき
をへして茶ヨん出る所へ出をしりんぐその
時りんをもとあるべりんをもてさにてぬぐひ
茶入とのせ出をし茶ちく袋をしのぞきふ
くさにてぬぐひりかをきへして出る袋を
をとをへして茶入出る所へ出をし相ものの

うちる釜へ相物をこちらにつもをとさ相物をたり
ひりち釜のををしして相物ををおきる至水指
乃ををんのひにてれたのひへとりををしてを指
して水こぼしと指ひのををしとあをたかうを
ひをちくをを至を相へあを茶碗相指ひへ入ををと
相指ひへ相茶入をををけれをの時を戻のをを
ど釜とあをて指ひへ入れをとりを指ひをを着
をを人相出ひをいをひ戻り相出茶

[illegible]ことの炭を[illegible]人借て答けて
[illegible]にて家[illegible]炭をのぞむ事あるを
時幸をまちて中[illegible]する[illegible]を三四日程
重ての[illegible]家炭[illegible]てのうち幸を[illegible]
[illegible]答けべし[illegible]家[illegible]のまま答をうけんとする
[illegible]ば[illegible]炭相[illegible]仕らんと云
て[illegible]もの炭[illegible]人[illegible]いまき人[illegible]で本具
[illegible]に紙に数[illegible]炭[illegible]出すべし

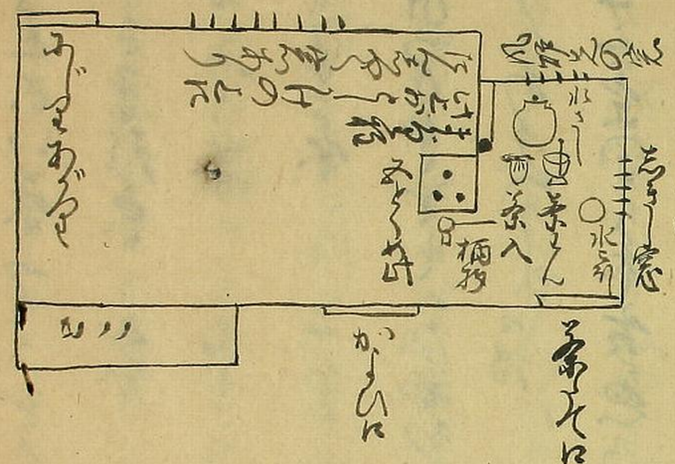
さ[illegible]ば[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

てぬぐひ相茶いまきてつのくてさにてぬぐひて
金のとよ金茶ちゃをぬぐひて金のたのかたに金
相茶うるはもと金ハかのまく金茶合うるかた
のくくりてたつるく

五徳ゆのかた

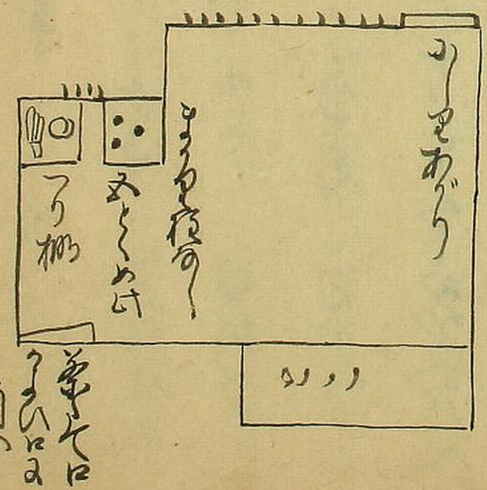
それ五徳ゆのかたをあくかるまの
うごきいた徳ゆとをうちぐくうるものくて金瓶金瓶
柄杓のひしゃくの金瓶のとりくに徳

五徳ゆの図



二畳半の図

一畳半ハ勿論二畳半
乃形もけうきもこと
畳にむかうく



第十二 古い茶をつかうぞうの事

初めて茶を飲む　六分　湯　六匁　一人前

日中の茶　六分　湯ハ　四分　日ノ

四うの茶　二分　湯　六匁　日ノ

たけつりをとをとをひあつ湯乃ちをとをあつ乃ん

まんあるべし　右

第十三 茶の花を乃たる事

それ茶乃ハ日ハ花ハのまれつるよりこれ茶人

茶流茶ちゃ茶ちゃんひちゃくまでのあけまき

えでびのまげぬやうにつまさきをもたる或

ひらをとをちゃんとゆびをとをとゆびをとを

ゆんあるべきまくるれ日よりかて

らぬつまげているとれいをのつくちゃ

しゃえんあるものをみひちゃくとをとをあげる事

あるいハ茶をあげるいあひらをひげをつけるを

ハいをを入たハ東又をづをとをハ古ハ前ハたハをを入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一自[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一卯月[illegible]日[illegible]の月朝日[illegible]風炉也[illegible]の[illegible]風炉裏也又[illegible]風炉[illegible]裏[illegible]

[illegible]

[illegible]

一炭をもつかふ事ハ炭をいけるうへにおくこと
つゝみ炭をもつかふまいるおきようにこめをかくる
事ハ炭ハ乃ハいてゝも乾ハあると
ゆ乃自然ハしめる事をふせぐ実法也
さかきをもつかふことゝ茶入ハ茶碗ハ
ゑ茶入と茶碗のうちへ茶をこぼしたるく
らつかをゑでとるやうに事なる物のうちゆ
ものとり炭ハ自然とこれにあいらるゝ

一門かゝ次ようるゆ水ハ水ハ
ぞさしのゝ釜入ハ二月時ゆ十月あり
まゝい宗おゆ一分中ゆ中ゆ前ゆ中乃ゆ茶
乃時ゆ乃ハ乃ハ釜ハ釜ハかゝう
川地時乃湯ゆ乃ハ庵乃つ
きにゆ見ゆ乃ハ桂ゆ筋ハ庵乃つ
或ハ勝ゆ雲ゆ乃ハ水場
乃石ハ水乃ゆ乃ハ乃ハ乃ハ

の人石などをつもしたる事あるべし　池をほり
乃松に中條の四合たる花石をうゑ植べし
その松のトもと　松樹をうゑ　中條のうゑ
その四條の四合たる　松樹をうゑ　松樹
ようゑ　あるべし　うらうゑ　庭をうゑ　ゐいいせのう
ようゑ　うゑ　てこの竹の節ごめにてさざむ
一　三つねすほ　ねの正寸寸　竹の皮にてつゝ
竹の皮まそこ正ゆゑり
一　ゐくさすほ　ゐのめくゐの方の寸分ぬのめにてのけ
むさきとうゑ　うゑ　昆ハちゝとうゑ　ゐ
一　巻巾すほ　そぶ寸寸　寸分もぬのでこうぬいうくハう
うくハかりてゑ　ゐりぬ　ゐ

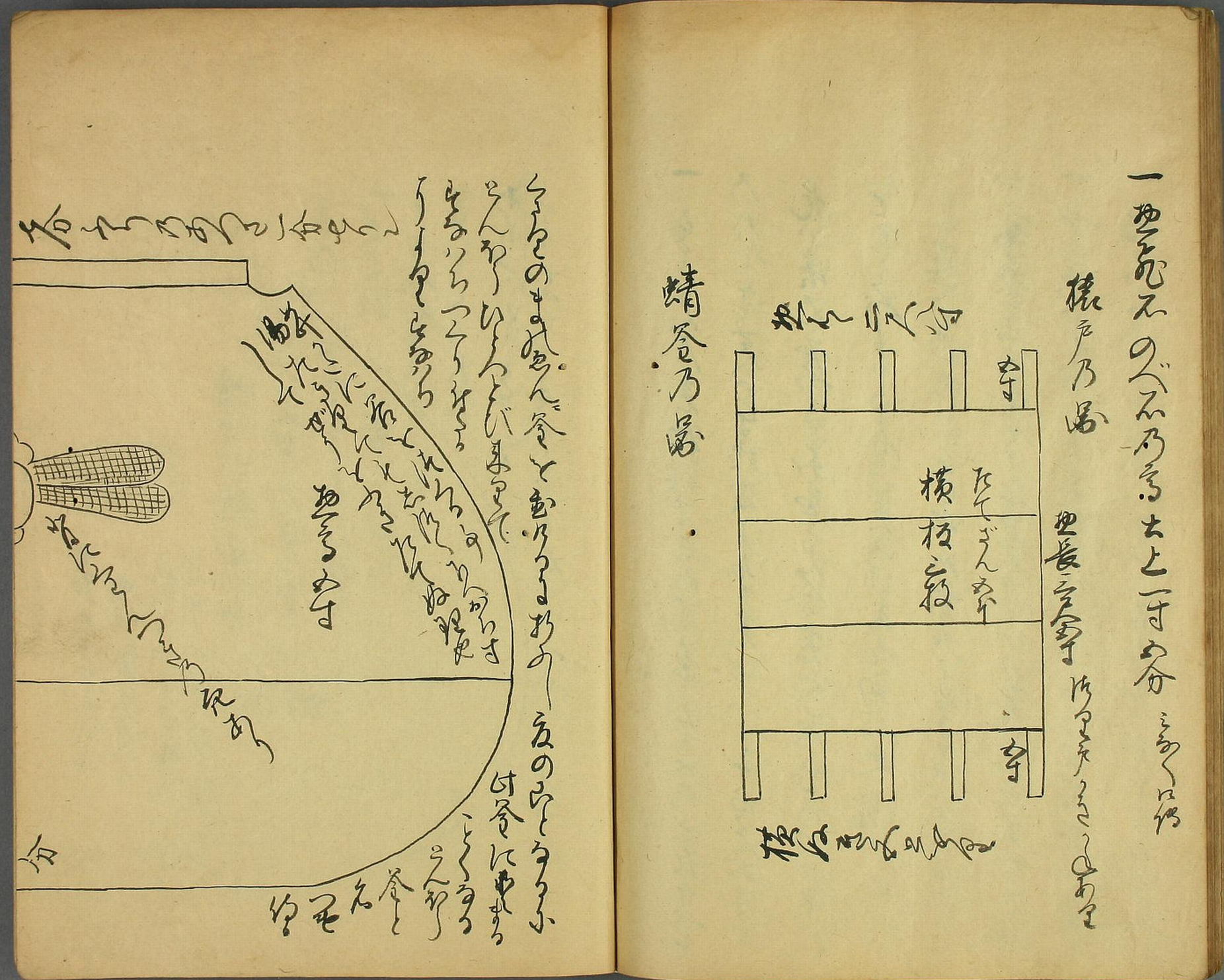
一　川切すほ　さうゐ　一寸二分　うゑ竹の目のうゑ
西方あり　ゐのうゑ　ゐり竹のかゐ　ゐ
一　ろんけすほ　さうゐ　寸寸　寸分　たる二寸分かのうゑ
一　小口すほ　さうゐ　ゐ寸かのうゑ　たる　ゐ　ゐ　寸分
うゑあり　ゐ　ゐあり
一　袋しき乃紙い板原紙を七枚とにつるあり　寸分
ゐ寸　寸　ゐ　ゐて用　ゐ　たゐ　ゐ　ゐ　ゐ
第十八　松樹の屋二文のうゑの事に付
一　松樹の屋かこい乃天井のうゑ地　ゐ　ゐ　ゐ　ゐまで
天ゐ寸　天井ハまゐ　ゐ　ゐてゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
かうぬつゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

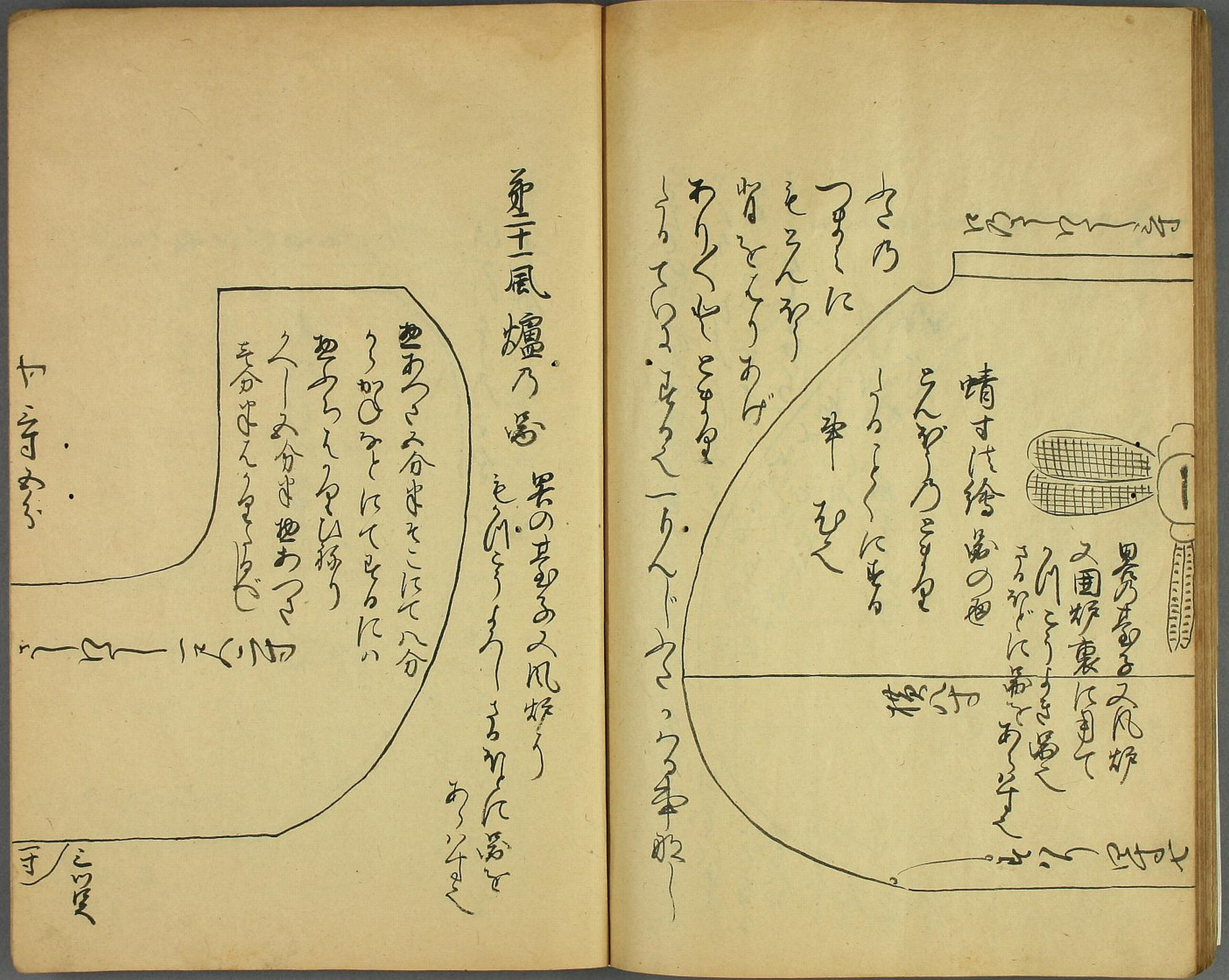
一柱のみたさ　寸二分　但六尺二寸ろくぐし　板まち九
一ろんろんのとうろう　数右のとまで一尺四寸
一庫ハ一号よりこうよりて　すまも庫ゆるゆら
ともに三尺二寸庫ゆらゆら　寸奈あつさ二寸二分庫
のかたちぐを　五井ゆらゆら　九寸　庫の内ゆゆ　井地
一大目乃かたちぐけ　ぐを庫のかたちけ下ぐにけく
一曲柱かたちぐをかたちゆう　地ぬまで二尺二寸ひ板さ
けたちの寸法合よりるたさい一尺四寸　ひ板

一みぐをあぐをあをにいるる三尺ゆう　横二尺二寸　六尺肥人宅の
一茶たにあけにゆる三尺ゆす　横二尺二寸　即寸ゆる
一ゆひにあをにゆる五尺　横二尺二寸ゆんぐぐり　内ひいまあり
一風炉さきの宗一尺二寸四方　地袋のとりゆす
一ちちゆ宗九寸四方　地袋とりゆす
一たんゆ宗　一尺二寸　横ゆす
一たいめけり棚一尺二寸に一尺也下に八寸四方棚
あるをゆゆ　百ゆす　上ハ竹まそけゆべ下ハま

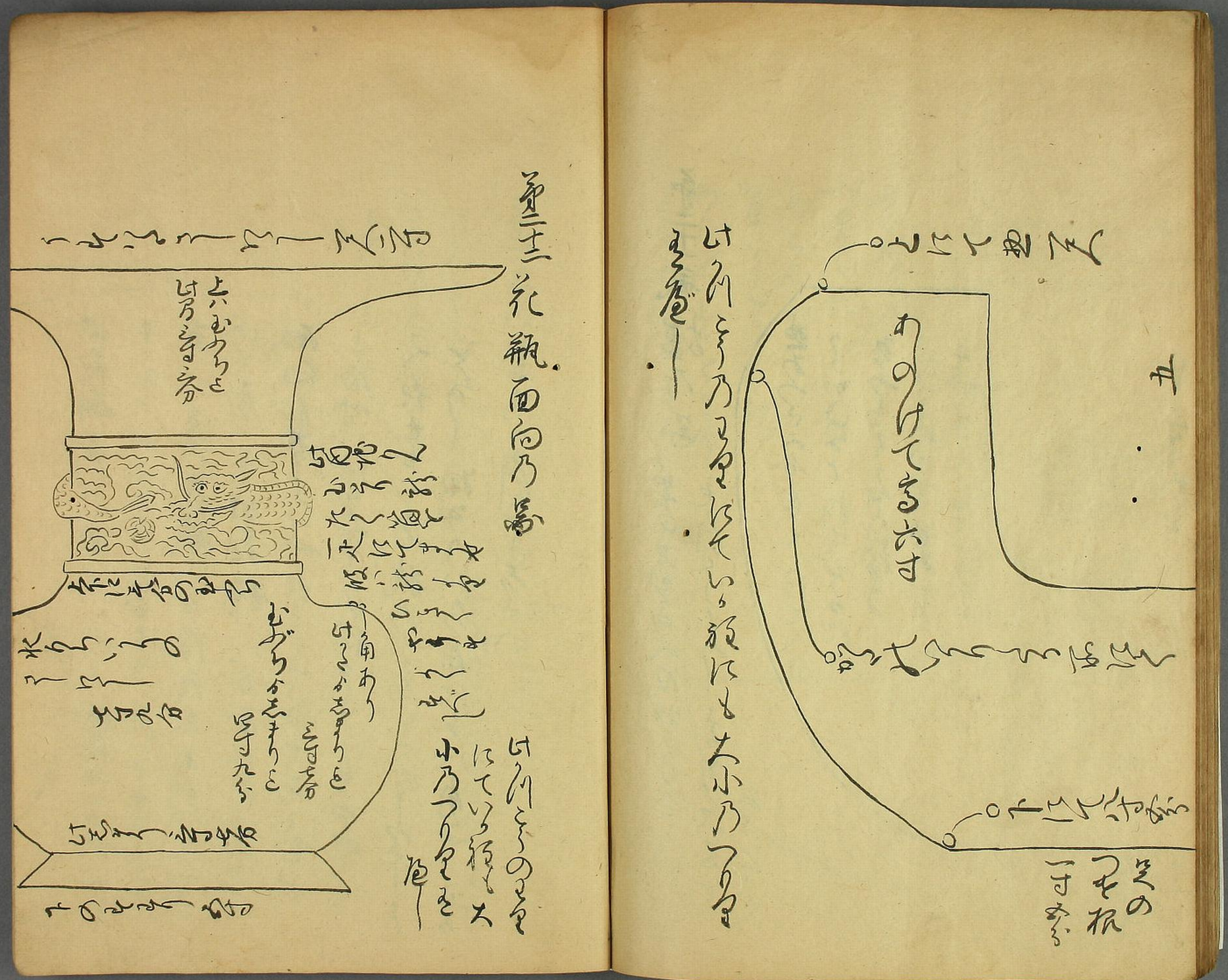
にてつるしゝ大間だるしゝ一でうとなりまして其の
一つをうるおこりもの乃訂ハ二尺六寸也 又棚ハ地盤より二尺三寸之又袋を
一炉ぶちの内の下ハ二尺六寸也 炉の内角之
高二寸二分但二分ハ内ハ二分組二分ハ内
一刀けゝ高二尺六寸 長八分 炉の内角
指けゝ内ハ八寸也 長二尺六寸ハ下の板
とひかりゝ長あやまり也 大事ハ板乃地と
長を垂直に加板 せうぶ高うへき事当用也

一長さ八尺乃定横八寸長さ第てに乃とたてつを
乃板ハ長八寸地盤より高の下まて四尺六寸也
先ハ高乃高さ第事八分高也 板乃内ハ高
とをとをゝ一とりゝ大の内ハ知也 為
先ハ乃石ハ 水石前石ハ高ハ一尺 為
一前石之上ハ高ハ二寸六分一小口巾ハ高ハ五寸二寸
一ハ長板之上ハ高ハ一刀ハ也 石ハ之上ハ高ハ寸
一板乃上之上ハ高二寸 一ハて石之上ハ高二寸六分


横板敷
横板敷



第二十一風爐乃器



第二十三 花瓶面向乃畫

はな瓶 面四角や竹 面四角背角なる
まるかたにたりんにむとり 筋をもうけて
耳つきの花瓶 あるはたんあり 二方
のこ面 はな瓶 八方面に用ゆべし
面四角背よりこれをたてはとむそひけ
高はいかをひ物 月中也
入花 花瓶 うとうとはなしとと
なる 物 ありは六角にも八角 也
ちさはかりをもい

第二手之内 置之 亀乃甲

はりこ乃こをはり
いろ紙と人形のつり
そべし

横 三人 寸

地 高 あれに七寸 奥行 一寸

はしをのかの
所ハ又分ケ
ス所を角くをき
ちゆ全はりしをは
又花をまたにちゆ
てあり所ハ所乃所
ハ又分ケ
ス所を角くをき
ちゆ全はりしをは
又花をまたにちゆ
てあり

一ハ生茶の湯乃ハ
和ん乃人乃たゝ
ちるをくちゆ
中たゝ
の湯をまて乃
ちゆ
いろ
ともゝ

はあゝてゆ
ん茶入ゆの
の茶の湯たん
茶の湯をする
ゝあるたゝ
の湯をのあご
ハ
ゝ

世乃風くにあ[illegible]あ[illegible]時[illegible]家をそう
わかなの事[illegible]する風炉の下におこす炭二つ
三つあいらい客人相中たちの[illegible]ら[illegible]ぬ[illegible]にて答礼
湯が沸たぎせてゆで客のいとん[illegible]答と
うもをあてぬまで客員とたとう[illegible]炉をまて
にくくちゃびんあ[illegible]べ[illegible]人客をそう時毎う
いちうむちうあ[illegible]にわゆ[illegible]時の[illegible]とき[illegible]う給
とうもて[illegible]入[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ